

【羽幌タイムスに掲載されました】

9月14日（金）、キャリア教育講演会の第2回目、「災間を生きるあなた方へ」～東日本大震災の教え～と題し、宮城県教育委員会教育推進次長の中澤宏一氏を講師にお招きし、講演会を行いました。東日本大震災直後に宮城県石巻西高等学校の教頭先生として赴任したご自身の経験を基に、災害の悲惨さや私たちがすべきことなどについて語っていただきました。生徒は先日起こった北海道胆振東部地震による災害と状況を重ねつつ、真剣に耳を傾けていました。

講演していただいた中澤宏一様、本講演会にご協力いただきました皆様、ご来場いただいた皆様に感謝申し上げます。

【羽幌】羽幌高校宮下
下加校長の「キャリア教育講演会」が十四日、中央公民館大ホールで開かれ、宮城県教育委員会指導主事の中澤宏一さんが「災間を生きるあなた方へ」をテーマに、「高校生には並外れたパワーがある。君たちが頼りだ」と呼びかけた。

中澤さんは東日本大震災直後に赴任した石巻西高校に赴任、生徒

と出会い、ふれあい、そして語りあった。「昨日まで名前が呼んだ教え子は番号になった。無力感、喪失感にさいなまれていた教師に勇気をくれたのは生徒たち」と話す。

避難所、仮設住宅を走り、笑顔で踊った生徒の自主企画DVD、災間を生きるあなた方をテーマに中澤さん

訪問「聞くことが力になること分かった。「言葉をかけて」とは、心を向けることだ。「つらい気持ち吐き出せば、コントロールできる」

中学の卒業式で歌うことができなかった一年生から伝播した校歌の合唱は学校を包んだ。放送局製作の西翔祭を紹介する反転ビデオには「青春は戻らない」（震災前には戻れない）前を向こうよ、先生」とのメッセージが込められていた。

おじいちゃんを亡くした女生徒は「語り部」になることを決意、数年前に羽幌にきて震災を伝えている。

誰かが「まさか」と叫んだ津波の映像に目をそむけ、生と死、孤独に直面し、心境をつづる生徒の詩「潮の匂いはほじまりだった、潮の匂いが終わりになつた。」の朗読に目を落とした。

先月に続く、二回目のキャリア教育講演会、二十日は冬季五輪の金メダリスト、阿部雄治さん、二十五日は世界のアルペンスキーで活躍した川端絵美さん、いずれも午後一時半から中央公民館で開く。

Ⅱ元石巻西高教頭の中澤さんが講演Ⅱ

無力感の教師に勇気くれたのは生徒
並外れたパワー、君たちが頼り

